

御幣山城跡

八柳 修之

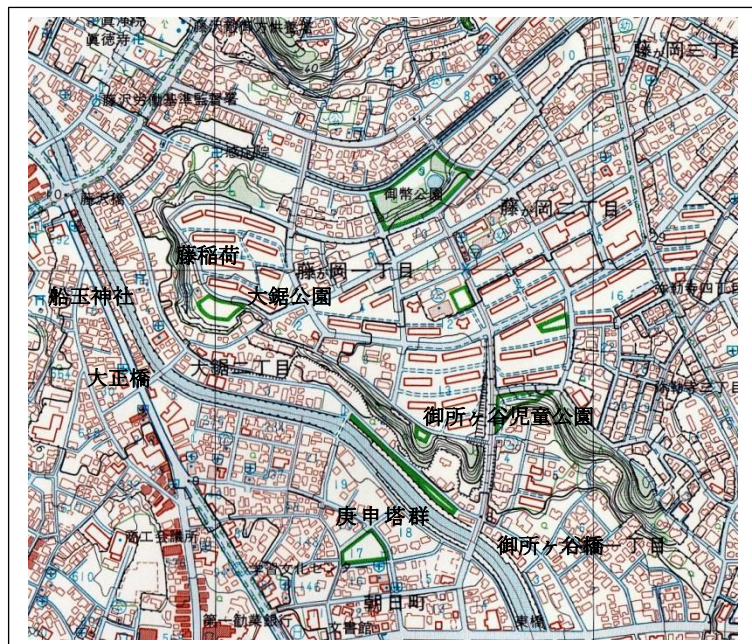
藤沢市にある城跡、大庭城と村岡城だけかと思ったが、「大藤澤復興市街図」を見ると、大鋸に御幣山城跡という場所があった。藤沢橋から遊行寺に向かい最初の角を右に曲がると船玉神社がある。この道は川名、深澤、笛田を経て、長谷の大仏に至る鎌倉道である。

神社の案内板によると「藤稲荷は大鋸の御幣山の西の端にある」とある。道の左側は急斜面となっていて、高台にはかつての御幣山城（砦）があり、現在は住宅地、藤沢団地となっている所である。

調べてみると、御幣（おんべ）山砦は、小田原北条氏が築いた玉縄城防衛のための出城で、北条氏の家臣大谷帯刀左衛門公嘉が城主であったと言われている。北条早雲の孫、後北条氏の当主北条氏康は、永禄 2 年（1559）に家臣団に家臣団名簿の作成し提出を求めた。

これが「北条氏所領役帳」として残っているが、藤沢市域の知行主として玉縄城の城主北条綱成ほか 16 人の侍がいた。その中に川名 大谷彦次郎（諸足軽衆）の名が見られる。

大谷彦次郎は川名の領主。諸足軽衆は小田原城の守護隊で、本城主北条氏康の側近が多く大谷氏も金銭出納人の奉公人として北条家朱印状（別名を虎の印判状）にしばしば名前が見られるということで、大谷氏の一族に大谷帯刀がおり、玉縄城の支城であった御幣山砦の城主として活躍している。また、手広との境に大谷筑前守某の屋敷地があったという。（新編相模国風土記稿）



上：大谷家墓 下：藤稲荷



御幣山砦のあった所は、住宅地や団地になっていて遺構は完全に消滅しているとのことであったが、何か手がかりになるものがないか。西の端が藤稲荷とすれば、藤稲荷から東の端まで歩いて見ることにした。船玉神社前から藤稲荷への石段は厳しかったが、上りつめた所に小さな社があり、隣りが墓地であった。その中に墓域が広い大谷家の墓があった。墓地の隣が児童保育施設、大鋸公園と続いていた。何も砦跡を示すものはなかったが大鋸公園辺りに砦があったものと勝手に推測した。今は樹木に覆われ何も見られないが、眺望に優れた高台は砦跡を忍ばせるのみである。さらに進むと、御幣山自治会西南地区（藤が岡 1 丁目 1）の掲示板があり、海拔 27m と書かれていた。その先に御所ヶ谷児童公園があり、82 段の石段を下ると、御所ヶ谷橋からの坂道に出た。

御所ヶ谷橋から再び船玉神社への戻る境川左岸の鎌倉道を歩くと、右側に庚申塔群、金子市長揮毫の合同慰霊碑があり、その後ろに「洗心 御幣山」と読み取れる石塔があったが、時代を示す記録は見当たらずコンクリート製のようにもあった。(完)



大鋸公園 大鋸B急傾斜地



御幣山の名が残る自治会掲示板



庚申塔群



御幣山石塔

出典：図説ふじさわの歴史 藤沢市
戦国時代の藤沢 伊藤一美 藤沢文庫